



▲コンフラン=サント・ノリーヌの街 ▲川沿いの風景 ▲ブリュレ城(現在は内陸水運博物館として使われている建物) (武蔵中原) ▲焼き菓子専門店「Conflans Saint Honorine」(武蔵中原)

# フランス共和国 コンフラン=サント・ノリーヌ市



**中島 幸二さん**  
大手洋菓子企業で30年、製品開発に従事。仏コンフラン=サント・ノリーヌ市で修行後、2023年武蔵中原に洋菓子店を開業。ジャパンケーキショーで金賞受賞。キリクリームチーズコンクール2位

私がフランスで過ごしたコンフラン=サント・ノリーヌ(注)は、セーヌ川とオーズ川が合流する場所にある、穏やかで歴史のある街です。

私はこの街の菓子店で働きながら、日々の暮らしを送っていました。朝、仕事へ向かう途中に目にするセーヌ川の景色、週末に川沿いを歩きながら立ち寄ったマルシェ、そして、仕事の後に店で同僚や常連さんと過ごした何気ない時間。そうした日常の積み重ねが、今でも私の中に深く残っています。

休日になると、セーヌ川沿いには

人々が自然と集まり、新鮮な野菜やチーズ、焼きたてのパンやお菓子の店が並びます。川の流れを眺めながら散歩をし、そのまま川沿いのレストランでゆっくり食事を楽しむ。そんな穏やかな時間こそが、この街らしさだと感じていました。

街の高台には古城ブリュレ城(Château du Priuré)の旧跡が残っており、そこから見下ろすセーヌ川の景色は、今でも忘れられません。長い歴史の中で、人々の暮らしが静かに受け継がれてきたことを、実感させてくれる場所です。

言葉が完璧でなくても、「C'était délicieux!(おいしかったよ)」「Je reviendrai.(また来るね)」そんな一言が、自然と心の距離を縮めてくれました。コンフラン=サント・ノリーヌは、お菓子や食事、そして街そのものが、人と

**INFORMATION**

フランス共和国  
人口 約6,860万人  
面積 549,134km<sup>2</sup>  
首都 パリ  
言語 フランス語

人をつないでくれる存在だったように思います。

今、川崎で営んでいる私の店「コンフラン・サント・ノリーヌ」では、この街で菓子職人として過ごした時間や、セーヌ川沿いで感じた穏やかな空気をお菓子を通して少しでも表現できればと考えています。

(注)地名は、ラテン語で合流を意味するConflansと、876年にここで見つかった聖遺物の聖人「Sainte-Honorine(聖オノリーヌ)」から名付けられた。

# 第31回 外国人市民による日本語スピーチコンテスト — 上位2名の受賞者へ、インタビュー —

2月7日(土)に「外国人市民による日本語スピーチコンテスト」を開催しました。審査の結果、11か国16名によるスピーチの中から「最優秀賞」に選ばれたのはアルデーヴ アレクセイさん、「川崎商工会議所 会頭賞」に選ばれたのはチャプマン ジャスミン ジャンティマーさんでした。お二人へのインタビューをご覧ください。



- 質問**
- ①日本語スピーチコンテストに参加した理由
  - ②テーマを選んだ理由と伝えたかったこと
  - ③スピーチをした感想
  - ④将来の夢や今後の目標について

**最優秀賞**  
**アルデーヴ アレクセイさん**  
【ロシア連邦出身】

**スピーチ概要**  
「カタカナ再発見の旅」  
来日して日本語の難しさに頭を抱えていた時、英語由来のカタカナは「砂漠のオアシス」でした。しかし、カタカナ英語だと思った「アナステージャ(麻酔)」は通じず、店員に言われて焦った「サービス」は有料ではなく無料の意味でした。そして次第にカタカナは「英語のコピー」ではなく、日本語の中でとても大切な役割を持つことがわかってきました。気持ちの表現(ワクワク)、短縮表現(コンビニ)、注目・強調の表現(持ち込みタメ!)。カタカナは日本語の奥深さを学ぶための「入り口」つまり「エントランス」だったので。



**川崎商工会議所会頭賞**  
**チャプマン ジャスミン ジャンティマーさん**  
【英国・タイ王国出身】

**スピーチ概要**  
「糸を探しながら、にゃんとしませす」  
英国には古くから「好奇心は猫を殺す」ということわざがあります。「深入りすると危険だ」という意味で使われますが、社会が進歩してスマホやタブレットができてから人間関係も変わり、直接は他人と話さないという人も増えてきました。でも、誰にも繋がらない人生は猫(みたいな私)に小判、意味がありません。ご縁を繋ぐ糸を探して、いろんな人と繋がっていきたく思います。外国人も日本人も少しずつ自分を表して、お互いと繋がって欲しいと思っています。好奇心と心配りの気持ちを持って、「糸」を探し続けます。

## 外国につながる子どもと保護者のためのプレスクール

(外国につながる子どものための小学校入学説明会)

まず、保護者に、日本の学校制度や学校生活の流れについて説明し、入学後の生活を具体的にイメージできるようにしました。教育委員会と共催したことで、学校の実情に即した内容を提供できたことは大きな成果だと思います。また、日本語に不安のある保護者には同時通訳を配し、安心して参加できる環境を整えました。その結果、内容の理解が深まり、積極的に質問や意見交換を行う様子が見られました。

子どもたちには、学校生活で使う日本語や集団生活における基本的なルールを体験的な活動を通して教えました。子どもたちは楽しみながら意欲的に参加していました。

さらに、来場した親子に「図書・資料室」を案内し、日本語学習や子育てに役立つ資料を紹介しました。今後の家庭での学びや継続的な利用につながることを期待されます。

今年から、午前・午後の2部制で実施したので、参加者は自分の都合に応じた参加が可能となりました。今後も外国につながる子どもと保護者の双方にとって、有意義な学びの機会を提供していきたいと思っています。

(文:川崎市国際交流協会 蔭 香梅)



会場の様子

多文化共生の取り組みにフォーカス!

## 「外国につながる子どもの寺子屋」ボランティア養成講座

外国につながる子どもが安心できる地域の居場所づくりを目指して、毎週土曜日に「外国につながる子どもの寺子屋」を開いています。日本語がわからないために、学校の授業についていけない子どもに、日本語や教科学習についてサポートする場です。

この寺子屋のボランティアを育てる講座を1月31日から全4回で開催しました。1回目は田嶋麻理子講師(川崎市教育委員会)による「川崎市の外国につながる子どもの現状と課題・学校の取り組み」、2回目は樋口万喜子講師(NPO日本語・教科学習支援ネット代表)による「日本語と教科学習支援の具体的な方法(日本語力ゼロの子どもたちとどう向き合うか、生活言語と学習言語の違いなど)」、3回目は中村ノーマン講師(多文化活動連絡協議会代表)による「外国につながる子どもを取り巻く環境と川崎市国際交流センターの寺子屋について」、4回目は実際に交流センターの寺子屋を見学するというプログラムです。

家庭では母国語で生活している子どもたちに、根気よく寄り添うことで、日本で自立していくことにつながればと思っています。

(文・写真 川崎市国際交流協会 加藤 恵美)



田嶋麻理子講師

- ①ある日、会社で耳にした会話「アジェンダをシェアしてエビデンスをもとにネクストステップをディスカッションしましょう!」。これは日本語か?英語か?カタカナの台風が吹き荒れる今の日本で、日本人にも外国人にもおもしろい話をきっかけに、日本語の魅力を発信したいと思い参加しました。
  - ②歴史が好きで、中国から伝わった漢字をもとにカタカナが生まれた過程に興味を持ちました。音読み、訓読みをはじめ、日本語には歴史を背景とした奥深さがあります。私たちの生活に合わせて形を変えていくカタカナの柔軟さもそのひとつです。「英語のコピー」ではなかった「再発見の旅」というテーマのもと、カタカナのすばらしさを伝えたいと思いました。
  - ③緊張しましたが、繰り返し練習した成果を出せました。表彰式の後の記念撮影で、自分が真ん中に座っているのが信じられなかったです。
  - ④ずっと日本に住み続けたいという気持ちがあります。今後、仕事をしながら日本でボランティア活動もしたいです。
- ◎これから日本語を勉強したいと思っているひとへ  
川崎には地域ごとに、日本語を学べるボランティアの教室が多くあります。まずはそのような場に参加して、地域の人と交流しながら学ぶのがおすすめです。同じ地域に住む人とは共通の話題も多く、コミュニケーションを取りやすいと思います。

**スピーチを聞いて、取材して一言**  
カタカナを取り上げた、アレクセイさんの着眼点が秀逸でした。カタカナとは単なる外来語の表記にとどまらず、生活を便利に、そして、表現に彩りを与える表記でもあることに気づかされました。もしカタカナがなかったら、日本語はもっととっつきにくく、退屈だったかもしれません。アレクセイさんの日本語愛に敬服しました。  
(取材・文:編集ボランティア 水野 裕子)

- ①英国で中学生の時に「日本語スピーチコンテスト」にチャレンジしたのですが、選考されませんでした。今、日本に来て、手話や動画作成、ボランティアなど、いろいろなものにチャレンジしています。その一つとして、再び「コンテスト」にチャレンジしようと申し込みました。今は就職活動中でそちらも心配ですが、今日、スピーチできて良かったです。チャレンジすることで世界や人との繋がりが広がって、楽しいです。
  - ②人との繋がりに興味があります。心理的な面を猫と糸を使って話したいと思いました。
  - ◎言葉や絵を次々にフリップで見せる手法は面白かったですね。わかりやすく工夫を考えていて、今朝、思い付いて慌てて描きました(笑)。上手くてできるか、ドキドキしました。川崎市の「御紋むすび」を描けなかったのは残念です。
  - ③「忘れた文章があったかな、抜けてないかな」と気になっています。でも、皆さんに笑っていただけて、場もなごんでほっとしました。
  - ④大きな夢は親切な世界を創ることです。つらいことがあっても、周りの人が助けてあげられる世界です。そして、個人的に叶えたい夢は起業することです。ある聴覚障がいの方との出会いがきっかけで、補聴器を中心とした精密機器の会社を起業したいと思うようになりました。
- (注)江戸時代、徳川吉宗一行が川崎宿に宿泊した際、一行に振る舞うおむすびを三角形に握り、丸い盆に三つずつ並べたのを「葵の御紋」に見立てたもの。

**スピーチを聞いて、取材して一言**  
ユニークなタイトルに自作のフリップ、言葉でも目でも楽しませてくれるスピーチでした。穏やかな語り口ですが、そこに内に秘めた熱量を感じました。インタビューでは、いろいろなことに興味を持ってチャレンジしていく楽しさと人との繋がりを大切にしている人柄が伝わってきて、思わず応援したくなりました。  
(取材・文:編集ボランティア 湯澤 英子)

**川崎ライオンズクラブ優秀賞**  
**ラマサミ ビジャヤラガバンさん**  
 【インド共和国】  
 「文化の違いが人生をもっとおもしろくする」

皆さんは外国へ行ったり、外国人と話したりをするときに「アレ？」と思ったことはありませんか？私は日本で生活する中で、文化の違いが人生をもっとおもしろくしてくれると感じるようになりました。電車の中の静けさ、数を指で表す方法や挨拶の違いなどに最初は驚きましたが、その「びっくり」や「まちがいが」が人生をカラフルにしてくれると思います。インドと日本では食文化も違いますが、だからこそ、新しい味に出会うことができます。こうした文化の違いは怖いものではなく、人生を面白くしてくれる宝物だと思います。

**川崎市国際交流協会優秀賞**  
**グエン ティトゥ フオンさん**  
 【ベトナム社会主義共和国】  
 「まずは一歩、自分の足で」

みなさん、自分の進み道を自分で選んでいますか？私は日本にいる姉のサポートで留学できましたが、現実には厳しく、挫折し、夜の公園で一人泣きました。その時気づいたのです。自分で考え、自分で選ぶことが大切なんだと。その矢先、首にしこりを見つけ、急遽帰国し、不安な日々を過ごしました。幸い経過観察となり、再び日本で勉強をしています。目標とする仕事に私が向いているかどうかはわからない。でも、「飛べるかどうかは、飛んでみないとわからない！」。これからは自分の心で、自分の足で、自分の道を進んでいこうと思っています。

**川崎ライオンズクラブ特別賞**  
**ウィーラシンヘ プッディカ サシンドウ ベレラさん**  
 【スリランカ民主社会主義共和国】  
 「あきらめない心が、私を変えた」

私は高校生の時、200M走でスリランカで一番になりました。それまで「もう無理だ」と何度も思いましたが、あきらめない心が私を強くしてくれました。この経験が日本語の勉強にも役立ち、「もうやめたい」と思った時も、「転んでも立ち上がればいい」とあきらめずにがんばることができました。留学生活は一人暮らしへの挑戦でもあります。ご飯を焦がしたり、洗濯で服を小さくしたりと失敗が続きますが、「できないことをできるようにする」を目標にがんばりました。「あきらめない心」でこれからも夢に向かっていきます。

**川崎市国際交流協会特別賞**  
**ジャイン スリシテイさん**  
 【インド共和国】  
 「私の心の中の『おくびょうなカーレージくん』」

私はアニメの「臆病なカーレージ(勇氣)くん」が好き。この犬はあらゆるものを怖がるのに、大切な人を守る方法を見つけるのです。私は昔から犬が怖いけど、犬が好き。大学時代、寮にいた時の犬は悪夢でした。彼との初デートの帰り道、私たちを追いかけたのです。彼は私をおいて逃げていき、私はその瞬間「この人だ」と確信して私たちは結婚しました。カーレージくんが「愛は恐怖よりも大きい」と教えてくれたから、私の愛が恐怖に打ち勝ち、犬を抱きしめて可愛がる日が来ることを願っています。

**努力賞**  
**趙 陸秋さん**  
 【中華人民共和国】  
 「日本の女子高生になりたい」

もし生まれ変わるとしたら、私は日本の女子高生になりたいです。私は中国の海から一番遠い寒い場所で生まれ育ちました。小学生の頃から日本のアニメを見ていましたが、そこに登場する女子高生たちは私にとって眩しい存在でした。やりたいことを探る姿、好きなことに全力でぶつかる勇氣を見て、いつか私も自分なりの道を少しずつ広げていきたいと思っていました。一昨年に日本に来て、ひとりぼっちだと感じる時やうまくいかないことが何度もありましたが、アニメの女子高生のように何度も立ち上がって一歩ずつ前へ進んでいきたいと思っています。

第31回 **外国人市民による日本語スピーチコンテスト**

出場者全員のスピーチの概要をご紹介します

◎スピーチコンテストはここから動画で見ることができます。



**努力賞**  
**リエウ ティ ゴック アインさん**  
 【ベトナム社会主義共和国】  
 「日本での夢と成長」

私は昨年5月から日本語の勉強を始めました。最初は授業についていけず、「本当に日本へ行けるのだろうか」と不安になったし、先生からも厳しく注意されましたが、それは先生が私に「夢を叶えて欲しい」という思いがあったからです。日本に来てからも、家族と離れて生活することは大きな試練で、何度も涙を流したことがあります。でも、私はただの実習生で終わりはありません。お客様と同僚、上司にも信頼される存在になりたいです。「夢は勇氣を出して一歩を踏み出した時に本当に始まる」という言葉を胸に、これからも日本で挑戦していきます。

**努力賞**  
**カンデル スシラさん**  
 【ネパール】  
 「日本で生きるということ」

ネパールにいた頃は、家畜の世話をしたり、牧草を刈り入れたりして、「将来、どう生きたいか」を考える機会はありませんでした。中学2年の時に日本に来て、少しずつ未来のことを考えるようになりました。最初は日本語がまったくわかりませんでしたが、今では日本語で考え、日本語で話すことができるようになり、高校生として勉強にもアルバイトにも挑戦できています。今は「将来、人の役に立つ看護師になりたい」と思い、将来、働くための留学資格を得られるように努力しています。これからもたくさん不安や悩みに向き合いながら、日本で家族と一緒に生きていきたいと思っています。

**努力賞**  
**バンニピティ アッチグドン プッディ アヌーラタさん**  
 【スリランカ民主社会主義共和国】  
 「自分の国の素敵なところ」

スリランカでは1983年から2009年まで内戦状態でした。私には内戦の記憶はほとんどありませんが、大人たちの不安な表情や夜の爆発音は覚えています。2020年からは経済が悪化し、物価高で人々の生活は苦しくなりました。それでも母はいつも笑顔で「希望を捨てないことが大事」と教えてくれました。この20年間、苦しみも希望も経験しましたが、スリランカの人々は助け合い、何度も立ち上がってきました。この強さこそ、この国の美しさだと思います。私はこれからもスリランカのために自分にできることをやらせてもらおうと思っています。

**努力賞**  
**ニン ヌエウーさん**  
 【ミャンマー連邦共和国】  
 「私の心に残る場所—宮崎台」

私はソフトウェアエンジニアとして働くために来日しましたが、当時はコロナ禍で、言葉の壁にも戸惑い、不安な毎日を送っていました。その後、転職をきっかけに宮崎台に引っ越ししました。最初はいつも小さな緊張がありましたが、季節の移り変わりを教えてくれる景色や駅前の店員さんのやさしい笑顔が、私を安心させてくれました。宮崎台は坂が多い町なので最初はたいへんでしたが、「千里の道も一歩から」ということわざ通り、一歩ずつ進むことの大切さを教えてくれました。いつか自分の国に帰る日が来ても、この町は私の心の中ですと生き続けたいと思います。

**努力賞**  
**レン キムさん**  
 【カンボジア王国】  
 「特別な理由はいりません」

私が日本語を学び始めた理由はたった一つ「アニメが好きだったから」。カンボジアでは、医者や弁護士といった給料が高い職業につけるような専門を選ぶことを両親は期待します。明確な理由がないのに日本語を勉強したいと言ったら、ほとんどの両親は同意してくれません。それでも私は勉強を始めて、大学2年生の時に日本語コンテストに入賞し、さらにその翌年には日本への留学プログラムの選考にも合格して、日本に来ることができました。やりたいことに「特別な理由」はいりません。皆さんもやりたいことをやりましょう。

**努力賞**  
**ヘラット アラッチ ルシニ ハンサニさん**  
 【スリランカ民主社会主義共和国】  
 「日本でびっくりしたこと」

日本に来てびっくりしたことが2つあります。一つは挨拶です。毎日、どこへ行っても「おはようございます」「いらっしゃいませ」「ありがとうございます」と挨拶を耳にします。私は相手への感謝と尊敬の気持ちを表している日本の挨拶の習慣をスリランカへ持って帰りたいです。もう一つはゴミの分別です。燃えるゴミ・燃えないゴミなどに分けることで、日本の街は美しいのだと思いました。私が来日した時、スリランカではまだ分別をしていませんでしたが、今は取り入れ始めています。日本のゴミを分別する方法も持ち帰り、一人一人が分別を継続することで、スリランカがよりきれいな国になることを願っています。

**努力賞**  
**ザン イー ナウンさん**  
 【ミャンマー連邦共和国】  
 「言語から繋がった社会・機会」

みなさんは今の社会はどのようにしてできたか、考えたことはありますか？日本に来て、半年くらい経った頃、自分の社会を分析してみると、バイト先は友達を紹介してくれて、学校はミャンマーの学校が紹介してくれたという風に、自分で作った社会ではありませんでした。それで、日本語をもっと勉強したら、自分の社会を広げることができると考えました。言語は単なる道具ではなく、言語ができれば人間関係が生まれ、社会を作ることができ、その中でいろいろな機会が出てくるのがわかりました。

**努力賞**  
**ピライマニーボン センターバンさん**  
 【ラオス人民民主共和国】  
 「道しるべのない世界」

みなさんは迷子になったことがありますか？私たちの人生は道しるべのない世界なので、時々迷子になることがあると思います。私も日本語を学びはじめた時、迷子になりました。日本語を学ぶことで将来の目標を見つけられるか不安になったのです。でも、日本語を学んでいる先輩を励みにがんばりました。また、日本語とラオス語が全く違っていることに気づき、壁にぶつきましたが、いろいろ挑戦して、「自分で考えて工夫する力」や「学び方のコツや、理解の仕方」を身につけたので、日本語を覚えることができました。迷子になることで学び、新しいものを見つけ、自分をよく理解できるのだと思いました。

**努力賞**  
**ロガナタン ガルツピアさん**  
 【インド共和国】  
 「私の日本での生活とインドと日本の文化の違い」

朝ごはんの納豆など、日本の食べ物はシンプルで健康的です。インドの料理はスパイスが多く、味がにぎやかです。私は両方が大好きです。日本は電車も会議も約束も正確で、時間を大切に生活だと感じています。インドはゆるゆるしていて、時間にやわらかい文化です。日本は電車で静かにしたり、ごみをわけてたり、たくさんルールがありますが、インドは自由にぎやかです。文化の違いはありますが、人々は親切で、日本で暮らせてよかったと思います。日本を思っで学んで、毎日を楽しみたいです。